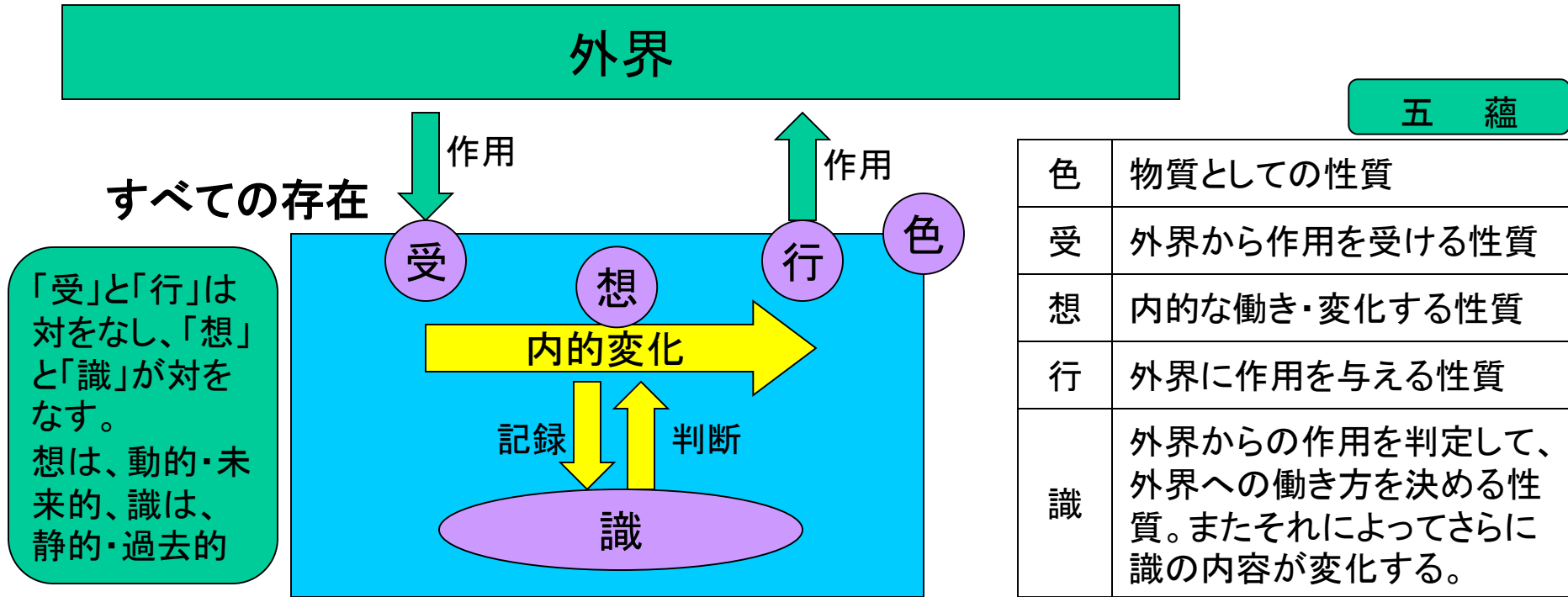


般若心経の主題(五蘊皆空)



五 蘊

色	物質としての性質
受	外界から作用を受ける性質
想	内的な働き・変化する性質
行	外界に作用を与える性質
識	外界からの作用を判定して、外界への働き方を決める性質。またそれによってさらに識の内容が変化する。

「受」と「行」は対をなし、「想」と「識」が対をなす。
 想は、動的・未来的、識は、静的・過去の

般若心経の冒頭に「すべての存在するものはみな5つの構成要素からできている。そしてそれらの本性が空であることの見極めた」とある。この一文に般若心経の主旨が全て込められている。全ての存在とは、もちろん人間を含めた生物以外にも、あらゆる物体が含まれる。たとえば命の無い石ころなども当てはまる。それらすべては5つの構成要素(色・受・想・行・識)から出来ていると示された。これらを五蘊という。即ちいずれの存在、あるいは人間も含めたいかなる生物もこの五蘊からできている。6つ目の構成要素など存在しない。石ころも五蘊からできており、人間も同じく五蘊からできている。つまり人間も石ころも存在という点に関しては全く同等だと。それ以上の存在ではない。般若心経で有名な言葉は、「色即是空」であるが「色」も五蘊の一つであることから、「五蘊皆空」が全てを言い表している。「色」すなわち物質的な存在だけが「空」と言っているのではない。人間の精神力、意思力も含めてすべてが空しいと言っているのである。
 注:「色」とは色彩の色であるが、我々が視覚を通して観察される物はみな色を持っている。観察される物は全て、(原子によって構成されている)“物質”である。ゆえに、色はすなわち物質を表す。